

東京大学 平成 28 年度推薦入試 入試結果

平成 28 年度より新たに導入された東京大学の推薦入試については、下記のようなスケジュールで選考が行われた。導入初年度ということもあり各方面から注目を集めた入試となったが、今年度は募集人員 100 名に対し 77 名の合格という結果となった。

■平成 28 年度 東京大学推薦入試結果

学部・学科	募集人員	出願者数	第 1 次 合格者数	最終 合格者数	実質倍率	入学許可科類	
法学部	約 10 人	24	24	14	1.7	文一	14 名
経済学部	約 10 人	7	7	4	1.8	文二	4 名
文学部	約 10 人	10	10	3	3.3	文三	3 名
教育学部	約 5 人	9	6	4	2.3	文三	4 名
教養学部	約 5 人	17	11	2	8.5	文一	1 名
工学部	約 30 人	47	44	24	2.0	理一	24 名
理学部	約 10 人	32	24	11	2.9	理一	8 名
農学部	約 10 人	12	12	9	1.3	理二	9 名
薬学部	約 5 人	4	4	3	1.3	理二	3 名
医学部 医学科	約 3 人	9	5	2	4.5	理三	2 名
医学部 健康総合科学科	約 2 人	2	2	1	2.0	理二	1 名
計	約 100 人	173	149	77	2.2		

■第 1 段階選抜は提出書類の内容により行われ、合格率は 86%という高い数値となった。なお、学部によっては第 1 段階選抜で不合格者を出さなかった学部もあった。

■最終合格者は、提出種類の内容、面接等の審査結果及び大学入試センター試験の成績を総合的に評価して決定された。なお、センター試験の成績には 8 割程度以上という基準点が設けられていたが、これはあくまでも「基準点」であり、センター試験の得点の優劣だけで合否が決定するようなことはない。センター試験の成績が基準点に多少届かなくとも、総合的に要件を満たすと判断されて合格した者もいたとのことである。

■合格者数が募集人員に満たない結果となったが、大学側は合格者の質には満足しているものの、募集要項に記載されている「求める学生像」のハードルが高かった可能性も示唆し、来年度は要項の表現や高校への周知について、高校とも連携をとりながら改善していく意向を示した。

■内訳

①学部別状況…

法学部では募集人員を上回る 14 名の合格者を出した一方、経済、文、教養、工、薬学部などは合格者数が募集人員を下回った。

②入学許可科類状況…

文科一類は法学部の合格者 14 名の他、教養学部の合格者 1 名が所属、理科一類は工学部の合格者 24 名の他、理学部から 8 名のあわせて 32 名、文科三類は文、教育、教養学部から計 8 名、理科二類は理、農、薬、医(健康総合科学)の各学部から計 16 名

③男女別状況…

男子 48 名、女子 29 名(女子の比率は 38%)

※ 2015 年度の一般選抜における女子合格者数比率…前期日程 18%・後期日程 14%

④高校所在地都道府県別状況…

東京都 20 名(26%)、東京を除く関東地区 14 名(18%)、それ以外の地区 43 名(56%)

この結果に対し、大学側は「推薦入試の基本方針である＜学生の多様性の促進＞に見合った結果と捉えている。」とし、多様性促進の理由として、出願できる人数を＜1 校につき男女各 1 名まで＞と制限したことを挙げている。

■今回合格者が募集人員に満たなかった残余分は、各学部が主に対応する科類の前期日程募集人員に繰り込まれる。

■本推薦での合格者については、「進学選択制度(進振り)」によらず、後期課程(3 年次以降)で今回合格した学部に進学する。前期課程(1・2 年次)は各学部の担当教員が選考の過程で合格者に適していると判断した科類に配属される。